



令和7年度 高等部 作業学習の実践事例

題材名：担当した作業を続けてしたり、でき具合を見直したりしながら、決めた仕方
分担した作業を進め、注文を受けたトートバッグを作ろう

授業者:西村 圭介

作業種目と教材を通して指導すること

本実践で取り上げたトートバッグは生徒の身の回りにもあり、作った製品を家庭で使用できるなど身近なものである。また、長さや織り目などの規格も決めやすく同じ手順を繰り返してできる作業が多いため、規格通りの製品を作るという確実な作業の指導に適している。

また、本実践では、教職員など身近な人からの注文を受けることにより、生徒が作業に取り組む目的やよい製品を作る必要性を感じ、自分から作業に取り組んだり、続けたりする態度、規格通りの製品を作るために決めた仕方作業に取り組むこと、規格通りになっているかを見直しながら作業を進めたりすることなどが育てられると考えた。

中心となる内容の学習指導要領の段階と内容	職業・家庭科 中学部2段階【職業分野】 A 職業生活 イ 職業	配慮的な内容の学習指導要領の段階と内容	数学科 高等部1段階 A 数と計算
知・技：イ(ア)④作業課題が分かり、使用する道具や機械等の扱い方を理解すること。 思・判・表：イ(イ)④作業上の安全や衛生及び作業の効率について考えて、工夫すること。 学 び：ウ 将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。		思・判・表：オ(イ)⑦数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり、 計算に関して成り立つ性質を見いだしたりする とともに、その性質を活用して、計算を工夫したり、 計算の確かめをしたりすること。	

題材目標

知・技	縁処理の作業をする時、決めた仕方がわかり、縦バンドを裁断して編み込んだり、縁バンドを入れたりする作業に決めた仕方で行き届く
思・判・表	自分が担当する作業に取り組む時、見直したり、必要に応じて修正したりしながら、自分が担当した半製品や材料がなくなるまで、縁処理の作業に決めた仕方で行き届く
学 び	毎回の作業で決めた仕方で行き届く、半製品のでき具合を見直し、必要に応じて修正したりしながら、自分が担当した作業を終えるまでに行き届く
配 慮	乗法を用いて売上金を集計し、売上表に記入する

授業評価

知・技	横バンドの2段目にボンドを付けて、縁バンドの先端を4段目に編み込んで接着するなど、決めた仕方で行き届くことができた。
思・判・表	縁処理を一面行う度に、縁バンドがすべての縦バンドに通っているか、裂け目がないかなどを見直すことを決め、必要に応じて修正しながら、半製品がなくなるまで作業することができた。
主 体	決めた仕方で行き届く、見直しや修正を行ったりしながら作業を終える姿が題材後半の毎回の作業で見られた。
配 慮	注文伝票から、800円のバッグが5人に1個ずつ売れたので、「800×5=4000」などと立式して売上高を計算することができた。

ポイント

△△ですとミスがなくなるよ

〇〇さんはどんな仕方で行き届いているの？

ここは□□さんと同じ仕方で行き届いてみよう

『良否の視点シート』

①作業を行い、気づいた点やポイントとなる点を付箋に記入し、良否の視点シートに貼る

②付箋を手順ごとに分類、整理する

③互いの意見を比較したり、試したりして、生徒同士で良品を作るための仕方を決める

※作業中に適宜確認ができるように、作業中に見える位置に掲示した

ポイント

ミスがあった！

半製品のでき具合を見直す必要性を感じられるように…
→不良品ができた場面を捉えて考える活動を設定

例 バッグの縁にPPバンドを通し損ねた場面での生徒の気づき

- ・作業を終えた後に見直すと、ミスがあった時にすべてやり直しになる
- ・納期の設定…一つ通す度に見直すと時間がかかるので、納期に間に合わない

↓

○一面通し終える度に見直しを行い、必要に応じて修正する

何のために、見直すのかということや、そうすることのよさを理解することで、内・外側の縦バンドを編み込む時など作業場面が変わっても、見直し・修正を行うことができた。

考察

○話し合い活動の充実

『良否の視点シート』や付箋を用いることで、話し合う内容が明確になる上に、考えたことを書き留めたり、操作したりすることで、話し合う目的やその内容が理解しやすくなり、話し合いが活発になったと考えられる。今後も、ミーティング等で生徒が気づいた点などを書き留めて、作業のポイントなどを共有する機会を設定する。

また、作業の進捗状況から、ミーティングで担当する工程の目標製作数を設定し、納期の意識を高めることで、より主体的に作業に取り組めるようになると考えられる。